



海の汚染が進んでいるらしい。
 住む場所がない移民がたくさんいるらしい。
 十分な教育を受けられない子どもたちも、たくさんいるらしい。
 遠くのことでも実感の湧かないこともあるけれど、
 気候変動とか少しずつ気になってもいい。
 確かなのは、世界は課題で溢れているってこと。
 わからないのは、誰が解決するのかってこと。
 ……もしかして、自分？
 その昔、達磨大師は言ったとか。
 『自分のできることから、コツコツと。』
 それは私たち日本人がずっと大切にしてきた、
 変わらない気持ち。
 今日から、未来は変えられる。
 高崎だるまに願いを込めよう！
 未来のために、行動しよう！
 群馬から始まる、
 世界を変えるSDGsプロジェクト。

DARUMACTION

上毛新聞社 THE JOMO SHINBUN

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



根本かおる 国連広報センター所長
テレビ朝日を経て、1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）にて、アジア、アフリカなどで難民支援活動に従事。ジュネーブ本部では政策立案、民間部門からの活動資金調達のコディネーターを担当。WFP国連世界食糧計画広報官、国連UNHCR協会事務局長も歴任。フリージャーナリストを経て2013年8月より現職。

What's SDGs?

「新聞記事やテレビニュースを通じて、「SDGs」という言葉を耳にするようになった。SDGsは「持続可能な開発目標」で、2015年9月の国連総会において採択され、以降、政府、自治体、企業、団体、教育機関等で多様な取り組みが進められているところだ。まずは「SDGsとは何か、どのようなことをすればいいのか、まずはどこから始めたらいいか、などの導入から始めてみたい。国連広報センターの根本かおる所長に話を伺った。

SDGsとは何だろうか
SDGsは「Sustainable Development Goals」の略称であり、エスディージーズと読み、「持続可能な開発目標」を意味する。国連が定めた世界共通の成長戦略であり、2030年の目標とする17の目標（図表1）が設定されている。例えば、目標2の「飢餓をゼロに」がキヤッチフレーズで、さらに「飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する」とある。17の目標のもと、それぞれについての細目にあたる

169のターゲットもつくられていて、まずSDGsが採択に至った経緯から見よう。21世紀直前の2000年、ミレニアム・サミットで採択されたのが「MDGs（ミレニアム開発目標）」で、主に途上国の社会開発課題について、2015年までに達成すべき8つの目標から成り立っていた。極度の飢餓人口の割合を半分にする目標などクリアできた目標がある一方、妊産婦死亡率や乳幼児死亡率の削減などで積み残しもあった。こうした従来型の開発課題に取り組みつつ、気候変動・地球温暖化、

地域間格差・男女間格差の拡大、気候変動に起因する紛争など、新たな地球規模の課題に取り組みようというのがSDGsだ。先進国にも途上国にも共通する目標である。「国連が採択した世界目標という点、国連機関や加盟国政府が頭張ればいそうではなく、民間企業や地域、市民社会、NGO、NPO、行政、研究機関、個人など、多様な機関・個人が「自分ごと」として捉え、自らできることを考え行動する。そうでなければ、とても到達できない、壮大な目標です」と根本さんは語る。

1を公開。レベル1「ワザに殺たままできること」、レベル2「家にいてもできること」、レベル3「家の外でできること」、レベル4「職場でできること」と4段階に分けて、世界を変えるために気軽に取り組めることを紹介している。サントリーはオリジナルキャラクターの「ハロキティ」を用い、SDGsをテーマにした動画をハロキティチャンネル（※2）で公開している。キティが興味がある場所へ赴き、視聴者と一緒にSDGsを学ぶという内容だ。「分りやすい」と評判なので、一度見てみるというだろう。

いまこそ始めたいSDGs

一人一人の挑戦が世界の未来につながる

拡大するも動きが遅い現状

根本さんに現状について説明してもらった。
「探択から4年が経ち、SDGsを「自分ごと」として捉えられる「アタタ」がどんどん拡大している。探択時に定められた、国連における進捗状況と展望に関する自発的国別レビュー（VNR）を起草した国はすでに150を超え、昨年の31ヶ国を皮切りに自治体レベルで進捗と展望を発表する動きが始まるなど、拡大を見せている。

拡大が見られるとはいえ、全世界の状況を見渡すと、到達すべき目標と照らし合わせるのと楽観視できる状況ではなく、このままでは達成の目途は取りにくい。「取り組みが足りない。あまりにも動きが遅いのが現状だ」と根本さんは説明する。例えば、目標1では「あらゆる場所であらゆる形態の貧困に終止符を打ち」とあるが、貧困削減のペースが落ち、このままでは2030年、世界人口の6%が貧困のまま取り残されるという。

気候変動も同様で、地球の平均気温は毎年約1.5℃のペースで上昇している。観測史上最高気温が更新された状況だ。海外では気候変動の話題は避けて通れないが、日本では関心が低く環境問題に矮小化されている。本来は経済、社会と連関する柱として大きな問題だ。

「五方良し」の考えで「スピードアップ」を

目標となる2030年に向けて、急速な拡大、そしてスピードアップが必要だ。取り組みを加速するため、国連加盟国は今年9月に開催されたSDGサミットにおいて全会一致で政治宣言を採択し、2020年からは「行動と実行のための10年」と位置づけ、アクションを踏み出す。

そのためにはSDGsを支える事業等に資金を流す仕組みが必要だ。世界的にもそうした制度が潮流となりつつある。日本でもESG投資、SDGs債などがある。「SDGsには、民間部門が力を発揮できる余地が大きい」と根本さんは非常に大きい。「民間企業への期待は非常に大きい。課題解決に加え、働きがいや格差の縮小など内的な施策で開かれた部分も大きい。日本企業には、売り手、買い手、世間の三方よしの考え方があり、それに地球よしの、将来よしを加えて「五方良し」がSDGsの考え方に強調したい。」

中小企業では取り組みのハードルが高いという意見もあるが、ゼロから始めるのはなく、すでに取り組んでいる施策を見つめ直すことが重要。SDGsとの結びつきを念頭にマーケティングと、自社の強みや弱みが見えてくる。大切なのは「マーケティング」で見た強みを生かし、SDGsが標榜する高みを指し、本業も含めた施策を通じて貢献することだ」と根本さんは語る。

まず個人で挑戦してみよう

自治体や団体、企業ではな

個人で取り組むには、まず「自分ごと」として捉え、身近な課題から始める。例えば、食料の安定確保や栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する。また、気候変動に具体的な対策を、気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る。海の豊かを守ろう。海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。陸の豊かを守ろう。森林の持続可能な管理、砂漠化への対策、土地劣化の防止および逆転、ならびに生物多様性損失の防止を図る。

また、根本さんは「一匹馬かあ天下」。女性が主導権を握ってSDGsをムーブメントにしてほしい」とも提案。SDG（電通調べ）によると、男性はSDGsへの認知度が高いのが行動が伴わない。女性の認知度は低い。無意識のうちにもSDGs

良い取り組みもあるが、それがネットワーク化されていないのが課題と根本さんは分析する。この点に終始しているというのだ。「SDGsの良さも、緩やかなるが、本来はつながることで本領を発揮できる」というわけだ。

図表1 SDGsの17の目標と説明

1	貧困をなくそう	あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、貧困削減のペースを速くする
2	飢餓をゼロに	飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
3	すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
4	質の高い教育をみんなに	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
5	ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
6	安全な水とトイレを世界中に	すべての人々に水と衛生へのアクセスを確保する
7	エネルギーをみんなに	そしてクリーンに 手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
8	働きがいも経済成長も	すべての人々のための包摂的かつ持続可能な経済成長、雇用およびディーセント・ワークを推進する
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	レジリエントなインフラを構築し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る
10	人や国の不平等をなくそう	国内および国際間の不平等を是正する
11	住み続けられるまちづくりを	都市を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする
12	つくる責任 つかう責任	持続可能な消費と生産のパターンを確保する
13	気候変動に具体的な対策を	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
14	海の豊かを守ろう	海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
15	陸の豊かを守ろう	森林の持続可能な管理、砂漠化への対策、土地劣化の防止および逆転、ならびに生物多様性損失の防止を図る
16	平和と公正をすべての人に	平和かつ包摂的な社会を推進する
17	パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発に向けてグローバル・パートナーシップを活性化する

※1「持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイド」
https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/24082/

※2「SDGs応援@ハロキティチャンネル」
https://www.youtube.com/playlist?list=PLBj-cWZxhYeWfRdNv0HwM5icT4xe5Pr

DARUMACTION



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsは、コミュニケーションツール ワールドロードの活動から見えること

世界をめぐる経験をヘリスに、SDGsを切り口にしながら革新的な事業を手がける市川太一さんと平原依文さん。「世界を学校でつなげてみたい」を旗印に今年「ワールドロード(WORLD ROAD)」を設立、活動する2人に、事業展開や目指すもの、活動に大きな影響を与えた One Young World Summit への参加について聞いた。(以下、敬称略)

地球を一つの学校に 創業のきっかけと具体的な事業展開について

平原 テーマは「地球を一つの道へ」。例えば、発展途上国では物理的に道がない人がたくさんいる。ロヒンギヤの難民キャンプでは、歩く道がなく、裸足で歩けば病気に感染してしまふ。一方、日本では、物理的な道があっても心の道がなく前に進めない道がある。みんなが支え合えば、物理的な道と精神的な道も解決できると考え、設立を決意した。

市川 メインは、空きオフィスや学校に事業を。いま企業は働き方改革を実践し、残業時間の削減にも取り組んでいる。経営者や管理職はその分、自己研さんを望むが「早く帰ってもやることがない。一方、企業内には、空き会議室などが数多くある。

市川 講師は One Young World Summit (以下「ヤングタボス会議」)で知り合った人脈が中心。「先生にも境界線をなくしたい」「世界と出合える場所にした世界」という思いを込め、外資系企業の従業員や海外にバックグラウンドがある人が講師を務める場合もある。他人はさまざまな経験をした人は、教員免許がなくても伝えるべき内容を持っている。

平原 普通の会社や学校では学べないことがテーマ。グローバルリーダーシップやSDGsとは何か、SDGs

両者の思いをかなえるべく、「オフィスに学校を」と発想した。

市川 テーマは、企業側のニーズに応じて決定する。SDGsについては、まず「事業に使える」「ポランティオと異なる」「この認識が出发点となり、次はどう

マーケティング、SDGs経営、プレゼン方法など、SDGs関連が多い。

市川 テーマは、企業側のニーズに応じて決定する。SDGsについては、まず「事業に使える」「ポランティオと異なる」「この認識が出发点となり、次はどう

マーケティング、SDGs経営、プレゼン方法など、SDGs関連が多い。

市川 テーマは、企業側のニーズに応じて決定する。SDGsについては、まず「事業に使える」「ポランティオと異なる」「この認識が出发点となり、次はどう

マーケティング、SDGs経営、プレゼン方法など、SDGs関連が多い。

市川 テーマは、企業側のニーズに応じて決定する。SDGsについては、まず「事業に使える」「ポランティオと異なる」「この認識が出发点となり、次はどう

平原依文 Hirahara Ibum
1993年東京都出身。中国、カナダ、メキシコ、スペイン留学。帰国後、早稲田大進学。卒業後、Johnson&Johnsonに入社。Pronoiaグループに転職後、ワールドロードを設立。現在、Pronoiaグループ社員とワールドロード代表を兼務。加えて2つの副業(マーケティング、ブランディング等)を持つ。

市川太一 Ichikawa Taichi
1992年福島県出身。都内の大学に進学。東南アジアへの渡航やシリアル留学を通じて、「もっと世界に出てみたい」という思いを抱く。One Young World Summit参加を機にアミューズに入社。VR開発を経験後、2019年、ワールドロードを設立。VR関係の副業もこなす。



One Young World Summit 開会式定例行事。代表旗手による世界196カ国の入場パレード

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

市川 クライアントは日系大企業や自治体を中心。SDGsに積極的に取り組む自治体からも、若手社員への指導方法、市民へのPR方法などの面で協力を要請される。中小企業も状況が変わりつつある。

マーケティング、SDGs経営、プレゼン方法など、SDGs関連が多い。

市川 テーマは、企業側のニーズに応じて決定する。SDGsについては、まず「事業に使える」「ポランティオと異なる」「この認識が出发点となり、次はどう

マーケティング、SDGs経営、プレゼン方法など、SDGs関連が多い。

市川 テーマは、企業側のニーズに応じて決定する。SDGsについては、まず「事業に使える」「ポランティオと異なる」「この認識が出发点となり、次はどう

マーケティング、SDGs経営、プレゼン方法など、SDGs関連が多い。

市川 テーマは、企業側のニーズに応じて決定する。SDGsについては、まず「事業に使える」「ポランティオと異なる」「この認識が出发点となり、次はどう

マーケティング、SDGs経営、プレゼン方法など、SDGs関連が多い。

市川 テーマは、企業側のニーズに応じて決定する。SDGsについては、まず「事業に使える」「ポランティオと異なる」「この認識が出发点となり、次はどう

マーケティング、SDGs経営、プレゼン方法など、SDGs関連が多い。

法人向けSDGsワークショップ開催 12/11 上毛新聞社 上毛ホール

群馬から考えるワークショップ「DARUMACTION」

講師:ワールドロード 市川太一さん 平原依文さん

SDGsを通して、つながり広がる。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。

SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。SDGsを切り口に、世界を学校でつなげてみたい。



DARUMACTION:シートを持って、達成したいSDGsゴールに想いを込めるアフリカ代表旗手

One Young World Summitとは世界約190カ国から各国を代表する次世代の若いリーダー(18~30歳)が年1回、一堂に会する世界最大級のサミット。2009年の世界経済フォーラム(ダボス会議)において設立が宣言され、2010年ロンドンで第1回サミットが開催された。以降、チュニジア(11)、ヒッチコック(12)、ヨハネスブルグ(13)、ダブリン(14)、バンコク(15)、オタワ(16)、ボゴタ(17)、ハーグ(18)で開催。10周年となる今年にはロンドンで開催。約2000人が参加。世界が直面する地球規模の課題に対し、次世代リーダーたちが連携して解決を目指す全世界的次世代リーダー育成プロジェクトと、選抜ヤングタボス会議。https://www.oneyoungworld.com

県内唯一のSDGs未来都市みなかみ町



上空から見たみなかみ町。自然と共生する姿そのものが世界のモデルとして認められた

「SDGs未来都市」。全国31自治体の一つで、本県で唯一選ばれた。ユネスコが世界的モデルに認定したみなかみ「ユネスコエコパーク」として、人と自然が共生する持続可能なまちづくりを進めている。

自然と共生するユネスコエコパーク

2017年6月に、「ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)」に登録されたみなかみ町。自然と人が共生する持続可能な社会の取組がSDGsの達成目標に向けた優れた提案であるとして、今年度の「SDGs未来都市」に選定された。



町主催の自伐型林業の研修でチェーンソーの使い方や木の切り方を学ぶ参加者

町エコパーク推進課長の高田悟さんは、「みなかみユネスコエコパークの自然を取り組みをみんな進めていく。世界が認めたモデルとして、SDGsの目標達成に向け率先して取り組むことは、自然を流れた」と振り返る。

町内9割が森林。自伐型林業を推進している。自伐型は、山林の所有者や地域住民が自ら、長期的な視野で丁寧に管理するもので、小規模・低投資で始められるのが利点だ。アウトドアガイドの副業としても相性が良く、移住・定住促進につながる期待が高い。町では、4年前から研



「これからもみなかみ町の自然を『まもり、いかし、ひろめる』を合い言葉に持続可能なまちづくりにみんなで取り組みたい」と話す(左から)高田さん、桑原さん、林さん

修を開催し、これまで200人弱が参加。自ら参加した町戦略推進室長の林市治さんは、「山林を自分たちの手で整備するのは、環境を見つめ直すいい機会。研修は毎年人気で、関心の高さを感じている」と話す。整備した間伐材は、薪ストーブや薪ボイラーの導入促進のほか、「木青」にも活用される。また、町は木製家具を手掛ける「オーグウェイジ(岐阜県)」と包括連携協定を結び、広葉樹を中心とした町産木材で製品を作る新しい事業モデルも構築している。

継続的な関わりでサポーターづくり

みなかみ町の取組を応援するサポーターづくりとして、利根川につながる都市部住民との交流促進や、町内で活用できるポイントカード「みなかみハートカード」を作成し、継続的に町と関わりを持つ関係人口の

SDGsを旗印にオールぐんまで!



「グレッタさんの呼びをわれわれ大人は真剣に受け止めなければならぬ」と片亀さん

SDGsが目ざされ始め、経済界を中心に関心が高まっている。しかし、実際のところ、17分野を学びを深め、SDGsの認知度を上げるための情報発信をしたいと、今年4月、連絡会議を立ち上げた。

発足から半年経った9月、「国連気候行動サミット」でのスウェーデンの16歳の環境活動家、グレッタ・トゥーンベリさんの怒りを込めた演説は衝撃的だった。私自身、環境問題に取り組み始めたのが中野1年のとき。美術のボスターで公害問題を描いたのがきっかけだった。

グレッタさんの演説に象徴されるように、持続可能な意識は若い世代のほうが高いと感じる。学校教育の現場でもSDGsを学ぶ機会が増えているのはいいことだ。世代間ギャップを世代間対立にするのではなく、「若者の素朴な危機感や願い」「ニア層の知識や経験」を「現役世代の実行力」をうまく融合して具体的な行動に結びつけられ、社会を変えていくパワーになる。それは、17の「パリターゲット」につながると思う。

意識や行動、社会の仕組み変えて

「SDGsぐんま連絡会議の片亀光さんに聞く」

「持続可能な開発の実現には、やはり一人ひとりの意識や行動を変えていくことが基本となる。エシカル消費が目ざされているが、消費者が何を選ぶかで、企業の姿勢を変えさせることもできる。連絡会議では、企業や団体のやる気を後押しするために、SDGsを取り入れた先進的な企業の具体的な事例を紹介するなど、情報提供の場を多く設けていきたい。」

群馬県地球温暖化防止活動推進センターでは、これまでも7の「エネルギー」や13の「気候変動」にあたる省エネや再生可能エネルギーの推進など、温暖化対策を行ってきた。現在「スマートムーブ」というマイカーに頼らない多様な移動手段でのCO2削減を進めている。しかし、個人や組織の取組だけでは目標達成は難しい。社会の

消費者の選択が企業の姿勢変える

生活系ごみ排出量全国でワースト

実は、群馬はごみ問題の取組が非常に遅れている。ごみ収集の有料化が進まないことが理由の一つで、環境省の統計によると、生活系ごみの1人1日あたりの排出量が2009年からずっとワーストワン。12の「つくる責任、つかう責任」にも関わらず、また、汚水処理の人口普及率が全国37位と下から数えた方が早える水源地としては問題があるのではないかと。群馬県では、山本太知事がSDGsの理念を県政運営に取り入れ、官民連携で推進すると決めた。われわれも次期総合計画をベースに民間の立場からオールぐんまとして取組を、積極的に連携していきたい。

市民社会のSDGs普及・啓発に尽力する SDGsジャパンの役割

SDGs市民社会ネットワークが伝える

SDGsの本質と課題

社会的弱者に光を当て、SDGs市民社会ネットワークの共同代表理事・大橋正明さんと、事務局長・新田英理子さんに話を伺った。
SDGsを伝え広げるネットワーク組織

一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク(略称、SDGsジャパン)は、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の実現を目指して設立された、市民団体(CSO)のネットワーク組織だ。設立の経緯は、SDGs形成を目指した多国間交渉

ワールド・ビジョン・ジャパンなど、「動く!動かす!」という国際協力NGOを中心に活動を行っていた。2015年9月のSDGs採択後は、主に国内で活動するNPOも加わったSDGs市民社会ネットワークとして組織を再編し、SDG達成に向けた取り組みを開始。2016年5月に、政府が設置した「SDGs推進円卓会議」には3名の市民社会から委員を提案し、政策提言活動を行ってきた。

SDGsジャパンが取り組む3つの柱

SDGsジャパンでは、市民社会ネットワークという特性を生かした政策提言、SDGsの普及・啓発活動、市民社会と民間企業・政府・研究機関・国際機関などの連携強化や問題解決策の提示の3つを軸にさまざまな活動を展開。全国に点在する会員団体とともに勉強会を開催したり、SDGsのアジェンダをわかりやすく解説した書籍を出版したりなど、SDGとはなにか、その具体的な実践のあり方を紹介してきた。



桐生市民活動推進センターで開催された、SDGs普及・啓発のための勉強会の様子

最近では、SDGsの普及・啓発活動として阪急阪神ホールディングスの「SDGトレインラッピング」に企画運営から参加している。今年の5月から1年間、阪急電鉄と阪神電気鉄道の車体にSDGsの啓発メッセージを伝えるラッピングを施した「SDGトレイン」未来のゆめ・まち号」を運行。車内ではSDGsの目標を解説した中吊りポスターを掲示している。

また、新田事務局長の胸には、17色の糸を用いたカラフルな刺繍と「LNOB



SDGsジャパン会員オリジナルの刺繍バッジ

B(Urban No One Behind)の頭文字」が記された革製のバッジが掲げられている。SDGといえ、ホイール型のピンバッジの印象が強いが、SDGsジャパンの会員団体でもある福島県郡山市の障がい者が働くNPO法人しんせいとのコラボ企画として作成。「丸ではなくテコボコでもいい。もったいなく、しんせいの提案を受け、しんせいを東日本大震災以降支援しているミシンのプラザ・工業もプロボンで参加。環境に配慮した皮のなめし技術を持つ東京都内の山口産業が手を取り合い、オリジナルバッジを完成させた。

こうした活動を通じてSDGジャパンでは「強い立場の人間がSDGsをビジネスチャンスとして勝ち抜いていくのではなく、弱い立場の人間に光が当たる。誰一人取り残さない社会を実現することが私たちの使命。プロモーションも大事だが、SDGsの本質を大切にしていきたい」と団体としての位置づけを説明。オ

2030年以降の世界を見据えて

「SDGsウォッシュを招いてはいけない」。大橋共同代表理事は、環境問題に對して「わべだけ取り繕うことを指す「グリーンウォッシュ」から連想した「SDGウォッシュ」という言葉を使い現状の問題点を指摘。今後は、SDGsに取り組むメリットばかりを見るのではなく、国内にはまだ多くの弱者がいるという実態を調査し、政策提言に活かしていく方針だ。

達成期限まで残り11年。SDGsジャパンが2030年までとそれ以降の最後に向き合うべき課題を最後に尋ねてみた。「絶望的な話をすると、2030年までに目標を達成できるとは思っていない。むしろ今は、2030年以降の土台を作るための準備期間だと捉え、SDGsの後継目標を考えていかなければ」。大橋共同代表理事の視線はすでに2030年より先の未来を見据えている。



阪急・阪神電鉄とコラボしたSDGs普及・啓発のためのラッピングトレイン

SDGs教育をリードする 高崎商科大

SDGsゲームを用いた普及と啓蒙に取り組み高崎商科大の前田拓教授に話を伺った。

ゴールの先の 可能性を体感

お金、時間、やりがちな人から人生において最も重視するものはさまざまある。異なる価値観や目標を抱く人間が共存するこの世界で、それぞれが自分のゴールに向かって行動したら、どんな未来が待っているのだろうか。



高崎商科大の前田教授

イマココロが開発したカードゲーム「2030SDGs」は、2030年までにSDGsを達成するための道のりを疑似体験させてくれるもの。ゲームを通じて「なぜ世界はSDGsが必要なのか」「目標を達成した先にどんな可

カードゲームで 達成を疑似体験



カードゲームに取り組む学生たち

性能があるのかを楽しく学ばせてくれるのだ。ゲームを実施するにあたっては、学びのクオリティを担保するために設定された「公認ファシリテーター」という資格が必要となる。高崎商科大の前田教授は「二人ひとりが世界を豊かにしたい」という思いをもち、行動すれば未来は変わる。という理解につながれば、という思いで資格を取得。大学の授業や自身がセンター長を務める地域連携センターの活動などでこれを導入し、SDGsの普及と啓蒙に取り組んでいる。「SDGs」といわれても、理解の少なさからどこか他人事のように感じてしまうのが現状。ところがゲームをして

飛躍となる イノベーション

「現段階では、誰一人取り残さずにSDGsを達成することは不可能」と前田教授。目標達成のカギは飛躍となるイノベーションであり、イノベーションを起すためには現時点での課題を発見する必要があること

群馬が生んだサステイナブルの象徴 高崎だるま

昭和5年創業の今井だるま店の3代目当主・今井裕久さんに話を伺った。



鮮やかな赤色に塗られただるま

納屋をイメージした個性的な外観のときわめ目を引く今井だるま店NAY。だるまの技術を継承する3代目当主の今井裕久さんは、高崎だるまをSDGsの意外な共通点として

SDGs達成を 後押しする存在



だるま作りを継承する今井社長

ることから「縁だるま」とも呼ばれている。発祥は江戸時代後期にさかのぼり、旧豊岡村の山縣友五郎という人物が農閑期の生活の糧にするためにだるま作りを始めたこととされている。当時、赤は魔除けの色と信じられ、やはり病の癒癒に苦しんでいた村人が赤い張り子だるまに願掛けをして飾ったことから、暮らしの中にだるまが普及。明治時代に入り絹産業が盛んになると、蚕が脱皮することを表した「起きる」と、だるまの「七転び八起き」をかけて、特に養蚕農家の間で商売繁盛の守り神として喜ばれ、商標のだるまが作られたという歴史がある。現代では、家内安全、商売繁盛、選挙必勝などさまざまな用途で用いられるようになり、やがて全国へと広まっていった。こうして200年以上にわたり、暮らしの中で持続的に愛されてきた高崎だるまは、サステイナブルの象徴ともいえる存在。その理由を今井さんは「圧倒的な生産力はもちろん、時代のニーズに対応してフォルムやデザインを変化させてきた柔軟さなのでは」と分析する。



時代のニーズに合わせて
デザインも多様

いまい・ひさひさ 1970年、高崎市上豊岡町で代々続いただるま店に生まれる。大学卒業後は県内の自動車販売会社に就職。26歳で退職して養蚕を継ぎ、近年は独創性の高いデザインだるまの制作で国内外から注目を集める。



1: 貧困をなくそう
例) 群馬の貧困について調べてみる!



2: 飢餓をゼロに
例) 残った焼きまんじゅうは即冷凍!



3: すべての人に健康と福祉を
例) ぐんまちゃんダンスで健康増進!



4: 質の高い教育をみんなに
例) 上毛かるたを極める!



5: ジェンダー平等を実現しよう
例) かかあ天下に甘えない!



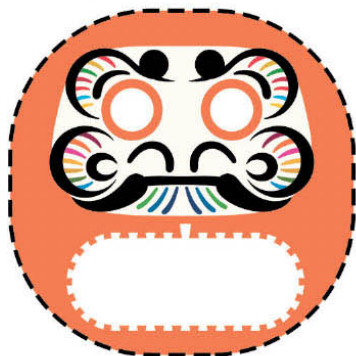
6: 安全な水とトイレを世界中に
例) 洗車は節水を心がける!



7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに
例) 早めに消灯して星空を眺める!



8: 働きがいも経済成長も
例) 温泉で明日の活力を注入する!



9: 産業と技術革新の基盤をつくろう
例) 富岡製糸場で産業を学ぶ!



10: 人や国の不平等をなくそう
例) 焼きまんじゅうは仲良く分ける!



11: 住み続けられるまちづくりを
例) 家族と防災について話し合う!



12: つくる責任つかう責任
例) 釜飯の再利用を楽しむ!



13: 気候変動に具体的な対策を
例) 食材は群馬の旬をチョイス!



14: 海の豊かさを守ろう
例) 海に行ったら最敬礼!



15: 陸の豊かさを守ろう
例) 県産材を積極的につかう!



16: 平和と公正をすべての人に
例) 道は積極的に譲る!



17: パートナーシップで目標を達成しよう
例) ダルマアクションの仲間と世界を変える!

だるまに目を入れて、目標を宣言しよう。

DARUMIACTION

上毛新聞社 THE JOMO SHINBUN

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS